

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第911号 平成27年4月9日

イクボス

子育てに積極的に関わろうとする「イクメン」は珍しくなくなりましたが、最近、そうした「イクメン」だけでなく、「イクボス」という言葉も脚光を浴びつつあります。

現在、「笑っている父親」を増やす事により、働き方を見直し、企業の意識改革等を進めようという活動を行っているNPO法人「Fathering Japan」によると、「イクボス」というのは、「職場で共に働く部下・スタッフのWLB（ワーク・ライフ・バランス）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむ事が出来る経営者や管理職」の事をいうようで、男性管理職に限らず女性管理職も対象となっています。

そもそも「イクボス」という言葉は、2013年（平成25年）に群馬県が男性の育児参加・育児休業取得を支援するための県民向け講座において、「イクメン」に対応する言葉として「イクボス」を使用したのが始めだそうです。

群馬県は、昔から「上州名物、カカア天下に空っ風」といわれて来ましたので、群馬県が「イクメン」発祥の地といわれると、妙に納得してしまいます。

このように、「イクメン」という言葉は大変新しいのですが、今や群馬県を超え、急速に全国に広まりつつあるようです。

2月14日付の日本経済新聞では、『イクボス』こうつくる」と題して、幾つかの民間企業の取り組みを紹介しています。

例えば、米製菓大手バクスターの日本法人には「イクボスカード」という制度があるそうです。これは、「育児・介護等で残業が難しい部下についてパフォーマンスで公平に評価している」「部下が急にひとり抜けても対応する方法を用意している」といった12項目のチェックリストに沿った行動をした上司に対して、部下が「あなたはイクボスです」と認定するシールを贈るというものです。

バクスターでは、2014年（平成26年）から働きやすい職場づくりと生産性向上のために「イクボスキャンペーン」を始めたのだそうで、「イクボスカード」は、社内に「イクボス文化」を広めるために導入したのだそうです。

また、ヤフーでは、「先輩イクボス」が「イクボス予備軍」の管理職を支える取り組みを行っているそうです。これは、時短で働く部下を持った経験が豊富で「あの

人の部下で良かった」と評判が高い「イクボス」を選び、サポーターに任命し、時短勤務の部下を持つ上司をサポートするというものです。

上述のNPO法人「Fathering Japan」では、昨年の3月から「ダイバーシティ・マネジメント」が出来る管理職を養成する事業「イクボスプロジェクト」を展開しており、参加企業が集まり「イクボス企業同盟」を設立しています。

「ダイバーシティ・マネジメント」というのは、企業等が、個々の社員が持つ多様性を受け入れ、それを競争力向上に活かそうとするもので、働く社員にとっても、企業にとっても共にウィン・ウインの関係を作って行こうという取り組みとって良いでしょう。

新しい時代のリーダーである「イクメン」の登場は、女性の活躍推進をお題目にしないというだけではありません。企業で働く父親達の意思や働き方が変わり、企業文化が変わるという事は、地域社会のありようをも変える大きな力となるでしょう。

そういう意味では、「イクボス」という名称が消えて無くなる位に、「イクボス」が企業や社会に早急に浸透して行って欲しいものです。

勿論、かくいう私も、部下から「イクボス」といわれるように頑張りたいと思っています。

なお、参考までに「イクボス」といわれるための10か条を紹介しておきましょう。

イクボス10か条

1 理解

部下が、子育て・介護・地域活動等のライフに時間を割くことへ、理解を示していること。

2 多様性

ライフに時間を割いている部下を、差別せず、ダイバーシティな経営をしていること。

3 知識

ライフのための社内制度（育休制度等）や法律（労基法等）を、知っていること。

4 組織浸透

管轄している組織全体に、ライフを軽視せず積極的に時間を割くことを推奨し広めていること。

5 配慮

転勤や単身赴任等、部下のライフに大きく影響を及ぼす人事については、最大限の配慮をしていること。

6 業務

育休取得者等が出ても業務が滞らないよう、情報共有チームワーク醸成等の手段を講じていること。

7 時間捻出

部下がライフの時間を取りやすいよう、会議や書類の削減、意思決定の迅速化等を進めていること。

8 経営目線

ボスの上司や人事部等に対し、社員のライフを重視した経営をするよう、提言していること。

9 自らWLB

ボス自ら、「仕事×私生活×社会貢献」というWLBを重視し、楽しんでいること。

10 業績達成

組織の長として、職責を全うし、業績やコミットメントを果たしていること。

(Fathering Japan の資料から作成しました。)

(塾頭：吉田 洋一)